

令和7年度 第2回近江八幡市地域包括支援センター運営協議会報告書

1. 開催日時 令和8年2月27日（金）14：00～15：30
2. 開催場所 近江八幡市役所 特別会議室2
3. 出席者 原田会長、頼住副会長、鈴木則委員、鈴木純委員、寫本委員、重野委員
西川委員、岡田委員
事務局 西澤課長、濱田課長補佐、西井主査（長寿福祉課）
中北部地域包括支援センター 西川センター長
東部地域包括支援センター 山本センター長（欠席）
西部地域包括支援センター 岡山センター長
安土地域包括支援センター 加藤センター長
4. 傍聴者 1名
5. 次第
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 議事
 - ・令和7年度の実績報告
 - ・令和8年度地域包括支援センター運営方針について
 - ・人材の確保について
 - ・介護予防支援業務および介護予防ケアマネジメント業務の一部委託について
 - (4) 閉会
6. 議事 以下の概要のとおり

事務局	○開会 ○会長あいさつ ○委員の出席状況について 本日の出席委員は8名、委員の全員出席であり、条例第33条第3項の規定を満たしており、本会議は成立していることを報告。 ○議事 令和7年度の実績報告について 資料1、資料3：事務局より説明 資料2：各圏域地域包括支援センター長より各圏域ごとに説明 質疑：圏域地域包括支援センターの取組結果について
委員	安土地域包括支援センターの新興住宅内の地域の民生委員さんにヒア

センター長	<p>リングをされたということだが、その地域を選択された理由と、その地域の特性と課題、これからの取組について。市の評価にも関係するかもわからないが、薬局との連携の話がいくつか上がっており、東部包括支援センターは、薬局からケースの連絡が包括に入ったということだが、どのような相談が入っているのか。これは各圏域、総じて薬局との連携が進んでいるのか。市全体として薬剤師会との連携状況について。</p> <p>過去に認知症で、一人歩きをされている方が数人おられる地域だった。この地域の方が行方不明になったときに、地域の方が探して下さったということを知り、地域でどう捉えられて活動されているかという確認をしたかったのでヒアリングをさせてもらった。既に認知症の理解をしっかりといただき、個別に分かれて担当の家を持たれて見守りをされている活動をされていた。認知症の方を見守るような体制作りを前向きにされているということがわかった。認知症で行方不明になりそうな方について、ケアマネジャーから相談があり、サービス担当者会議に入らせてもらったり、またできれば地域ケア会議をさせてもらって、民生委員さん、地域の方に入ってもらって、一人歩きを予防できるような体制がどこまでとれるかと確認をしたり、共通認識ができるとういと考えている。</p>
事務局	<p>本日東部包括のセンター長が欠席のため、この場面でケースの背景をお伝えできないが、医療機関や薬局から直接、薬の管理ができない等で見に行ってもらってほしいといった相談を直接頂いていることは把握している。薬剤師会と市との連携については、薬剤師さんが非常に前向きに対応くださっており協力いただいている。3月号の市の広報の特集記事にも協力いただき、薬局はただ薬を渡す場所ではなく、福祉や介護の相談につなげるところとっていただいている。</p>
委員	<p>直営の地域包括支援センターの圏域でケアマネジャーの情報交換会をしているとあったが、ケアマネジャーは全市の利用者を担当している。直営以外の圏域でも実施してもらえないか。</p> <p>ケアマネ連絡会がない中で、12月にケアマネジャー対象の研修会が開催され有難かったが、定期的に行われる予定があるのか。</p>
事務局	<p>東部圏域の情報交換会は社協の協力のもと、今年度モデル的に実施。大変好評であったので、次年度は各圏域で開催してもらえよう調整したい。</p> <p>研修会については、今年度と同様、ケアマネジャーの顔の見える関係づくりができるよう開催予定。ケアマネ連絡会については、次年度、</p>

<p>会長</p>	<p>年度当初に事業の説明等もあるので、再度日程等についてはお知らせさせていただき予定にしている。</p> <p>企画するとき一緒に何か意見を言ったりとか聞きながらしてもらおうといいのかなと思いますので。やはり受ける方にとって、メリットがあるように、効果があるように。企画の段階で一緒に考えていただけたら嬉しいなと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>地域ケア会議の回数が少ないのでないか。</p> <p>ケアマネジャーから相談があまり上がってこないのか。それからこの地域からの課題みたいな、地域からの声もあんまり上がってこないのかな、どうなのかなと感じた。一番最後のアウトカムのところ、ケアマネジャーとの連携のところのアンケート調査があるかと思うが、報告されたように西部包括が62%と最も高く、このままで良いよって言っていたが、連携が十分図られていてこのままで良いっていうのと、不十分だけどこのままで良いのかな。連携はどういう連携をケアマネジャーが望んでいるのか、包括もどんな連携を望んでいるのか、そのあたりをもうちょっと追求していくと、どういうところと連携しないといけないのかとか、そういうことが明らかになってくるのかなと思った。ケアマネジャーの方も問題が起こったら、困難事例とか、困ったことがあったら包括に相談したらいいなと思ってはいるとは思うが、日頃から連携をあまり意識してないかもしれないというのものもある。何かその辺り、考えていることがあったら聞かせていただきたい。</p>
<p>センター長</p>	<p>中北部圏域では、地域ケア個別会議として開催したのが1件と報告するが、ご本人やご家族、支えているケアマネジャーさんであったり、事業所の方と共有して、安心して見守っていただけるような体制をとれたということで開催した会議となっております。</p> <p>他にも、地域ケア会議という形をとってはいないものの、ケアマネジャーさんと地域の支え手の方をつないだりといったことは随時継続でやっている。地域との連携が少ないといったことではない。ただ地域ケア個別会議となってしまうと、ケアマネジャーさんも「そこまでいわ」になる。</p> <p>どうしても個人情報関係で同意書を先にいただいたりというところがあり、そういったところで、敬遠されると認識している。</p>
<p>センター長</p>	<p>西部圏域の方も地域ケア会議は、なかなかケアマネジャーから「困っているので会議をしてほしい」という経過にならず、こちら側からケースを地域の中でどうしていったらいいかなというふうに提案をして</p>

	<p>いきながら開催をしていることが多い。</p> <p>地域包括からケアマネジャーにご依頼したケースは、一定関わって、介護認定が出て、ケアマネジャーを紹介し入っていく形になるが、引き継ぎ後、いろいろトラブルが出てきたり、困難な対応が出てくるケースで会議をすることの方が多いのかなとは感じている。</p> <p>包括はどういう視点でどういうイメージを持ってケアマネジャーと連携するのかというところだが、居宅介護支援事業所はほとんどが主任ケアマネジャーの配置をされている。あと複数配置の事業所が結構多い。複数のケアマネジャーがおられる事業者が増えて、中で相談をしながら対応されているというケースも見受けられる。ただ、その管理者から 中で相談したけれどもこういったところを困っているの</p> <p>で、助言が欲しいとか、家族さんが威圧的でケアマネジャーももうちょっとどうしようもないし、一緒についてきてほしいとかそういうふうな形でご依頼があったり。こちらから気になるケースで一緒に行きたいという形をお願いをしたり。関りの中での連携かな、というふうには包括の場合は思う。本当にケアマネジャーはよくしてくれている。包括からご依頼すると、「大変なケースですか」と聞かれることもあるが、「必ず一緒にフォローさせていただくのでお願いします」という形で本当によく受けていただいているので、そこで関係を構築できればなというふうには感じている。</p>
事務局	<p>基幹型の方も、アンケートの結果をセンター長と共有しているときにも、「ケアマネさんがどういうことを求めておられるのかな」という委員にいただいたことと同じようなことをセンター長と話していた。今回の介護支援専門員への調査は総合介護計画のためにとってしているのでそこをもっと掘り下げて、今後ケアマネジャーがこういったところで連携を求めているのかといったところを、別のアンケートで取れたらなというふうに思っている。それは包括的・継続的ケアマネジメント事業の中で、次年度実施できたらと考えている。</p>
会長	<p>実際に連携された事例の分析とかしていくと、こういうケースを連携するとうまく包括とケアマネとが繋がって行って、課題が解決しているんだというところが出てくるでしょうし、その中で積み残したことが政策の方に上がっていかないとはいけませんので。そのところが、「連携ができています」というところで終わるのではなく、どこが良くてどこが不足するのかというところを、推進会議との連携が進んでいくといいなというふうに聞かせていただいて感じたところです。すごく大事なところだと思いますので、ケアマネジャーとの連携のと</p>

委員	<p>ころは重要にご検討いただけたらありがたいなというふうに思っております。</p> <p>社協の方では今年度から東部包括エリアと安土包括エリアの方で第2層の生活支援コーディネーターを受託しており、その2エリアの方では日頃から、3ヶ月に1回ほどは会議で情報共有し顔の見える関係ができた。その中で、実態把握をされるときの住民さんとの繋ぎとか、一緒に方向性を考えるとか、そういったことや、地域ケア会議に、地域の方と一緒に参加をさせていただくとか、いろいろな面で連携ができてきたかなというふうに思う。また全市的にも民生委員さんが改選をされた後、社協の職員も各学区の民自協の方にご挨拶や説明に行かせてもらう時に、各包括さんにもお声掛けさせていただいて、一緒に挨拶に寄せていただいたりとか、また全ての学区で、今年度と来年度で各学区ごとの住民主体の福祉計画作りを行っているため、包括職員さんも一緒に来ていただいて、専門的な視点で地域の課題とかをお話しいただいたりすることで、より実態に応じた課題の把握とか共有が地域の中でできてるようになってきたかなというふうに思う。その中で日頃から連携をさせていただいている立場としまして、今後につなげる視点でお聞きしたいなと思うことが、地域の皆さんと一緒に取り組みたい課題、特に取り組みたいと考えている課題があれば教えていただきたい。</p>
センター長	<p>今年度地域ケア会議の中でご報告をさせていただいた、独居の方で、介護保険を利用するほどの方でもなく、地域に1人で住んでおられて認知機能低下のある方が認知症地域支援推進さんの声かけで、認知症カフェに来られている。認知症カフェの方がその方を誘っていただいた。ただやはり認知機能が低下している中でその方をどのように見守ったらいのかということで、地域の方を含めての地域ケア会議の開催をさせていただいた。今後も一つの居場所を中心とした、支え合える場ができればと思う。そういう方が参加できるような居場所は、そんなにたくさん西部にはないので、それが各地域のいろんな所で、介護保険までもいかないけれども家で1人でいると・・・というレベルの認知症の人の居場所が、地域をよく知っておられる社協さんの方々とうちの認知症地域支援推進員や包括の職員と一緒にできればなというふうには思う。</p>
センター長	<p>本年度 特に社協さんからお声掛けさせていただいて、地域で話し合いたいというところに一緒に入らせていただける機会がすごく増えて、とてもありがたかった。地域の方々がどう思ってもらっしやるのかということ</p>

	<p>ころを聞け、大変ありがたかった。その中で、包括の業務として、そういったところで、どういう資源があつてとか、どういう困りごとがあつてというのもそこでわかった。コーディネーターと個別含めて情報として活かしていったりとか、逆に地域で困ってらっしゃる内容をその場でこういうことがあるんですっていうことを協議したりできるというのが大変ありがたくて、来年度以降もさせていただければと思う。ただ次年度どうしていきたいかまではまだ思っていないところがあるが、やはり地域の方の話し合いの中に入ると高齢者だけではなくて、子どもさんのことがすごく心配で、子どもさんの相談先がないというようなことをよく聞く。高齢者が増えていく中で、それもあわせて心配だつていうことをおっしゃっている方がすごくどの地域にも多いので、そのあたりは包括支援センターだけでどうこうできるということではないが、何かいい方法があつて地域のことをしてらっしゃる方もいろんな協働があつていけば、長い目で見て、そういう協働ができたらいいなと思うが、たちまち来年度、何ができるかと言われると現時点では具体的には言えない。</p>
センター長	<p>安土包括の方では今年度社協さんとの会議に何度か入らせてもらいまして、その社協さんの会議が、とてもわかりやすくありがたいなと思つて参加させてもらつてきました。認知症の人の行方不明の訓練について考えていたが、他市町でやられてるような警察の方とか入つてもらふような訓練になるとちょっと大がかりになってしまうかなと思つたりもしておりましたし、社協さんの方から地域では住民さん主体の認知症の方に対する言葉かけの寸劇をされているという情報をいただいておりました。できたら詳しくその方にどういった経過があつて実施されてどうだったかなつていうのを聞かせてもらえたらよかつたなと思うんですが、それができてないんですけれども、もし可能であれば地域の方と連携して、認知症の理解を底上げできるような、例えばここに書かせてもらつていましたが、言葉かけのロールプレイがいいのか、他の方法がいいのかとか、何らかの方法を用いて認知症の理解を深めていって認知症になつても人に言われたくないんだとか、外に出たくないなとか、言われぬような地域が増えるといいなということをおもつております。以上です。</p>
事務局	<p>東部包括なので、実践のところでは、また次年度違う新たな取組があるかもしれないが、現時点では今年は学区で催しておられる文化祭やフェスティバルのようなどころに出ていって、もの忘れチェックであつたりとか、そういった住民さんと直に関わるところに意識的に出ら</p>

<p>委員</p>	<p>れていたというふうに思います。社協のコーディネーターと連携して、地域の住民さんだけではなく、ケアマネジャーだったり介護の事業者を巻き込んで、社会資源を紹介したり、発掘したりというところを取り組んできましたので、次年度も引き続き、市民さんだけではなく地域の専門職等、いろいろな方々を巻き込んで地域作りをしていく予定です。</p> <p>こういう会議を進めるときに、それぞれのセンターの報告を逐一していただかなくて、それはもうどこかで全体見に行ってもらって、行政の方でヒアリングかけてまとめていただいて、どこに課題があって、どういう問題をどういうふうに解決していこうと考えているのかということここへ出していただいて、ここでそのことを議論して行って足りない部分を補足的に報告をもらうというのが本来もう少し会議を実効的にできるのではないかなというふうに思います。今の社会の構造そのものが大きく、様変わりをしてきていて、出生数が昨年70万人今後もますます出生数が減少していくそんな社会がやってきた。しかも20年ぐらい予測よりも早く進んでいるこの社会構造の中にあつて、こういう介護保険制度の中で今やられている各事業をどう捉えていっていけばいいのか、本来運営なさっている方々の情報を聞きながら進めていくのがいいのかなというふうに思います。</p> <p>要は、事務担当の方にヒアリングをかけた4センターの課題をここでこういう課題があります、ああいう課題があつて、こういう方向でいきたいと思つています、ということ整理して出してもらえばいいのかなと思つています。ここでは今後の方向性、文書にするとこれぐらいのものしか出ていない。これで近江八幡市の介護保険制度の中で それこそ何が書いてあるかという、住み慣れた地域で安心して、自分らしい暮らしを続けることができるまちづくりと いうふうに書いて、これは次のところどんな議論で出てくるんだろう。それを実現するために、こうしてやってるけれどもこういう課題があります、こういう問題があるというふうに整理を今後していきたい。みたいなことを少し出してもらえると、まずは良いかなというふうに思つています。答えは結構です。</p>
<p>委員</p>	<p>続きになりますが、プランがあつて、PPDCA ルールですね。次に行くことをしないと。初めてこの会議で聞いたんですけども、この1ページ目のアウトカムとか結果とか。やっぱりこれだけではちょっと次にいけない。似たようなケースがあるかなと思つていますけど。例えば、認知症で動けなくなる独居老人で息子さんたちは東京と大阪にいてど</p>

センター長	<p>うしようなど。先ほどの方が言われていたような相談があります。ああいうケースが一番多いんですよ。多分同じようなケースをまとめてもらった分を今後どうしようというところがやっぱりヒアリングをしてもらって、この会議でそれこそどうしよう。にっちもさっちもいかない症例をこの場に出してもらったら、一番それが早道なのは。地域包括支援センターの人とケアマネジャーさんが一緒に密になって、配分的にはその後どうなりそうなんですかね。</p>
	<p>委員がおっしゃっていただいたように、「元々独居で、認知症が少し出てきてます、関わってあげてください」というご連絡を、「本人もええと言うてはるのでご連絡します」と連絡いただいている。まずは訪問に行って状況を確認する。そこに家族さん親戚等がわかれば、そこで包括の方からこのような状況ですということで連携を取りながらキーパーソンを決めていただいて、キーパーソンとやり取りをして、進めていきます。全く身寄りがなくて、全くどうしようもないという場合は、私どもでは何もわからないので、行政、基幹の方にご連絡をさせていただいて、一緒に身内を探したりとか、どうしてもなければ権利擁護とか、成年後見とかという形で進める。</p> <p>家族が動けなくても、こちらに来られない場合でも、郵送やメールでご連絡をしたり、特にメールでやり取りすることが多い。キーパーソンさえ見つければ。最終お金の管理をどうするかとか、そういう細かいことは次考えていけるので。</p>
会長	<p>入院も同意書があるので、それも病院から送っていただいて送り返すという形で、手法考えてコンタクトを取らせていただいている。</p> <p>最初に出されました運営方針がありますので、この運営方針に基づき地域包括支援センターの運営がきちんとされているかどうかということはこの会議で協議をすることになります。ですから、先ほどの1枚目の図でいうところの今の説明が事業とアクティビティとアウトプットの説明だったので。実際にそれがアウトカムとしてきちんとできているかどうかというのを次年度再度検討していかないといけない内容なのかなというふうに思います。</p>
事務局	<p>令和8年度の地域包括支援センター運営方針についてはお示ししております資料4の通り令和7年度と同様の方針で運営する予定です。</p>
会長	<p>次の議事について。次年度に向けての人材の確保に関して事務局の方から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>人員配置についてですが、本日、追加で資料を出させていただいております、前回の第1回の運営協議会でもお出しさせていただいてる資</p>

	<p>料の3-1と記載している資料を見ていただけたらと思います。</p> <p>人員配置について、現状西部地域包括支援センターにつきましては主任介護支援専門員の1名分が常勤換算での配置になっておりまして、1年間求人頑張ってかけていただいておりますけれども確保できず、次年度も引き続き常勤換算の状況で運営をさせていただくということをご報告させていただくこと、もう一点は、令和5年度の介護保険法の改正に準じまして令和6年度当時の条例改正において、複数圏域を1圏域として柔軟に人員配置を行うことが可能となっております。現在は直営の東部と安土地域包括支援センターにつきましては、東部・安土それぞれの地域包括支援センターの職員の配置については現在3名ずつ配置しておりまして、引き続きこの配置は変わりませんが、安土学区の高齢者数や相談件数を鑑み、両センターの人員の運用の状況で流動的に、例えば、安土に職員が籍を置いていても、東部のケースを担当したりというような形で、流動的に業務を分担するという体制をさせていただけたらというふうに考えておりますので、皆様にご報告をさせていただきます。以上になります。</p>
<p>会長</p>	<p>ご意見ありませんか？</p> <p>(なし)</p>
<p>事務局</p>	<p>では議事の最後になりますが、介護予防支援事業者の計画作成に係る委託の状況について事務局からご報告をお願いいたします</p> <p>資料5になります。地域包括支援センターが市町の指定を受けて指定管理予防支援事業所として、要支援者を対象にする予防給付のケアマネジメントを行っております。本市では基幹の方の介護予防支援事業所が実施しておりまして、このうちの一部を指定の居宅介護支援事業所に委託しております。この委託している事業所については必ず運営協議会の方で報告するという事になっており、令和7年度は以下の24事業所にプラン作成を委託しております。引き続き令和8年度も委託を考えておりますので、ご承認の方をお願いしたいと思います。今の件ですけれども委託に関してはご承認いただけますでしょうか？</p>
<p>会長</p>	<p>(承認)</p>
<p>副会長</p>	<p>いろいろ皆さんの意見をお聞きしながら進めてきましたがそれぞれの議事進行にご協力いただきましてありがとうございます。</p> <p>○閉会挨拶</p> <p>○閉会</p>